

1 提案の概要

仮説] 「物語を書くために民話を読む」ことにより、児童は意欲的に作者の表現のよさに目を向けるとともに、物語を書く楽しさを味わうことができる。

(1) 1つの言語活動で単元化を図る。

「物語を書こう」のねらい…民話や昔話の組み立て方の理解とそれを使った文章の構成
「三年とうげ」のねらい…物語の組み立てを捉え、登場人物の心情の変化や情景の想像

↓
「組み立て」をキーワードに、2つの教材を一つの言語活動「組み立てを考えて物語を作り、みんなで読み合おう。」で単元化

- ・ 民話を読むことを書くためのツールとする。

(2) 目的意識を持って活動するための学習計画を立てる。

① 課題意識を持たせるために、単元に入る前に伏線をしく。

- ・ 朝の読書、家庭での読書で民話への関心を高める。
- ・ 自主学习で児童が作ったお話を紹介し、創作活動への関心を高める。

② 第一次に子どもとともに、単元を貫く言語活動と課題達成に向けての計画を話し合 って決める。→十分に話し合うことで学習への意欲と見通しが持てる。

(3) 場面ごとの読みを書くことに活用する。

- ・ 2単位時間を1サイクルとして、ワークシートを使って、場面ごとに読み取る活動と書く活動を繰り返していきながら、一つの物語を完成していく。

(4) 比較を通して変化のある「転」を書く。

- ・ 教師が作った転の部分が欠落した資料文と教材文「三年とうげ」を比較して、どのように出来事が解決に向けて動き出したかを読み取り、物語を書くための「技」としてまとめて書くことに活用する。

2 成果

ワークシートを使って、場面ごとに読み取る活動と書く活動を繰り返していきながら、一つの物語を完成していく方法をとることにより、書くのが苦手な児童も意欲を持続させ、書き上げることができた。また、各場面の特徴や組み立て・表現のよさを生かした文章も書くことができた。

3 課題

書き手として読むことにより、教材文の書きぶりの良さには気付くことができた。しかし、「読むこと」の指導事項である登場人物の性格や気持ちの変化を想像して読むということは、十分に達成できなかった。

単元を貫く言語活動で書く力を育む

書き手として民話を読みながら —「三年とうげ」・「物語を書こう」— (3年)

仮 説

「物語を書くために民話を読む」ことにより、児童は意欲的に作者の表現のよさに目を向けるとともに、物語を書く楽しさを味わうことができる。

1 言語活動の価値 (指導要領より)

「B書くこと」

(1) 目標

(2) 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、夫しながら書こうとする態度を育てる。

(2) 内容

① 指導事項

- ア 関心のあることがらなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること
- イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること
- ウ 書こうとするものの中心を明確にし、目的に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

② 言語活動例

ア 身近なこと想像したことなどを基に、詩を作ったり物語を書いたりする言語活動

「C読むこと」(2)の「ア物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。」との関連を図り、詩や物語の基本的な特徴を理解し、書くことを楽しむようにすることが大切である。・・・物語は、主人公その他の登場人物がそれぞれ役割をもっていること、フィクション(虚構)の世界が物語られていること、冒頭部に状況や登場人物が設定され、事件とその解決が繰り返され発端から結末へと至る事件展開によって構成されていることなどの特徴をもっている。また、物語も詩も語り手が、一人称や三人称などの視点から語っていく形式となっている。

中学年では、このような特徴を必ずしも十分満たさなくても、児童の思いを大切にしながら創造的な表現をすることの楽しさを実感させることが大切である。

「C読むこと」

(1) 目標

(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

(2) 内容

① 指導事項

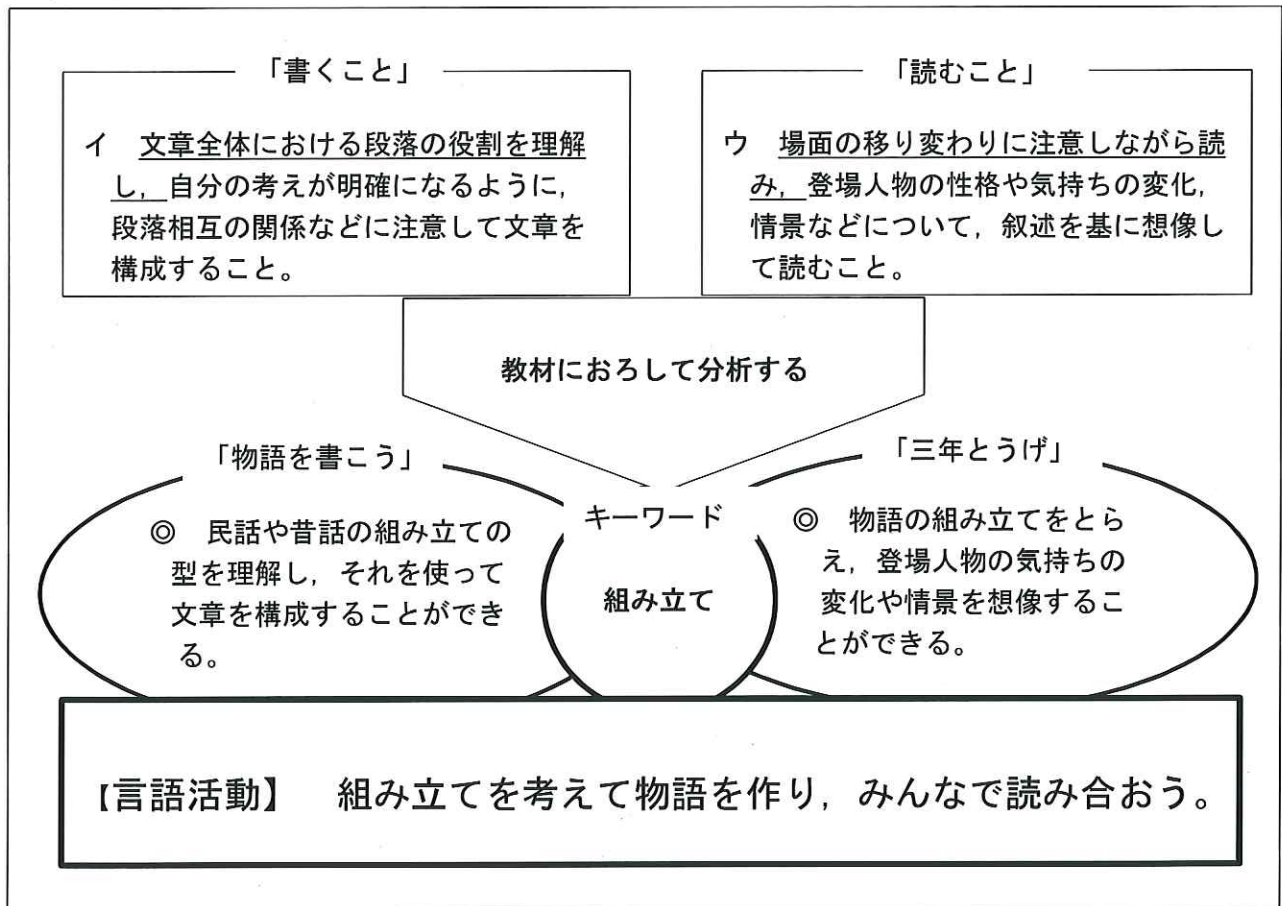
- ウ 場面の移り変わりに注意しながら読み、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと
- オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと

2 1つの言語活動で単元化を図る

(1) 指導事項と教材の関係

「物語を書こう」のねらいの中心は、民話や昔話の組み立て方を理解し、理解したことを使って文章を構成することができることである。経験したことや想像したことなどから物語の題材を決め、マッピングによって物語を書くうえで必要な事柄を集める。集めた情報を「はじまり」「出来事の起こり」「出来事の変化」「結び」に整理し、組み立てを考慮して書いていくのである。

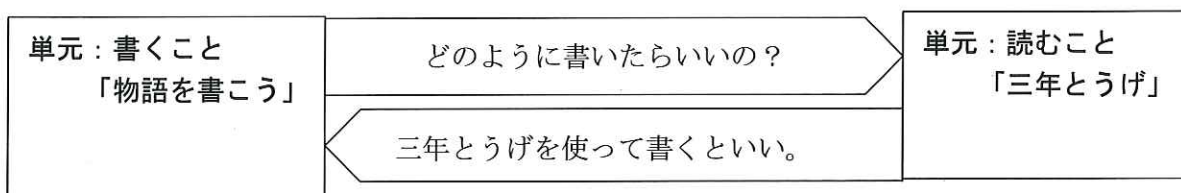
民話「三年とうげ」のねらいの中心は、物語の組み立てをとらえ、登場人物の気持ちの変化や情景を想像することである。民話は話の内容が平易で、場面の移り変わり(起承転結)がとらえやすいという特徴をもっている。そこで、「組み立て」をキーワードに一つの言語活動で単元化した。



(2) 書くためのツールとしての「民話を読むこと」

私の課題は、子どもたちに必要感や目的意識をもたせることである。「教科書にあるから。」「先生が言うから。」読むのでは、子どもたちに主体的な読みは期待できない。「～するために○○する。」という目的意識が明確になってこそ、子どもたちの意欲が喚起され、力として身につくと考える。

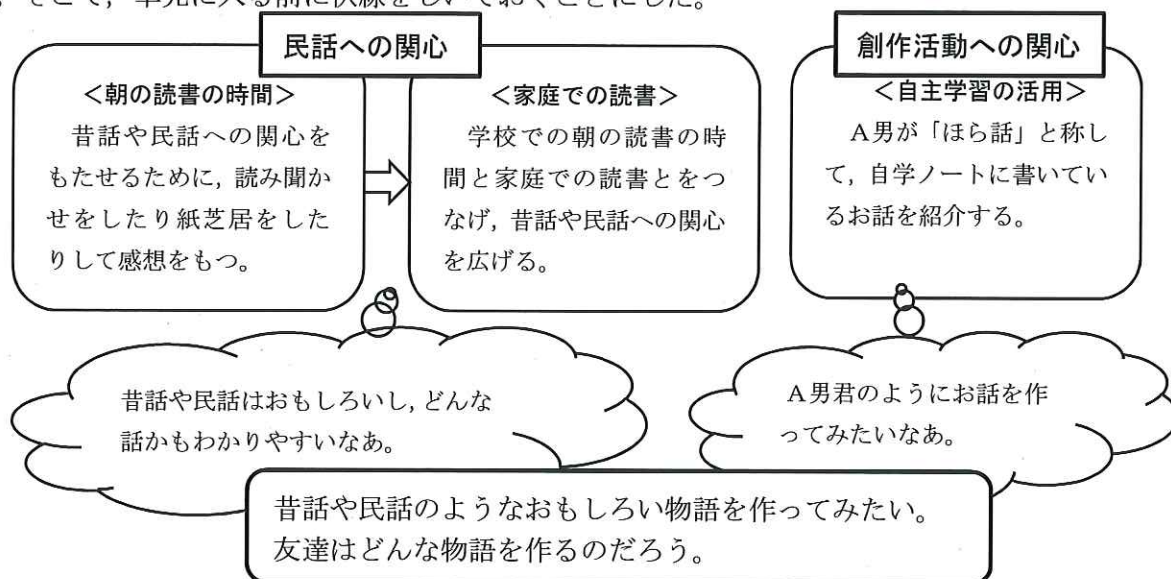
教科書には、民話「三年とうげ」(6時間扱い)の次に、「物語を書こう」(7時間扱い)が掲載されているが、ここでは、「民話を読む」ことを書くためのツールとした。そして、「物語を書くために民話を読むことにより、児童は意欲的に作者の表現のよさに目を向けるとともに、物語を書く楽しさを味わうことができる。」という仮説をたてて実践することにした。



3 単元を貫く言語活動を設定するための一次

(1) 単元に入る前に伏線をしく

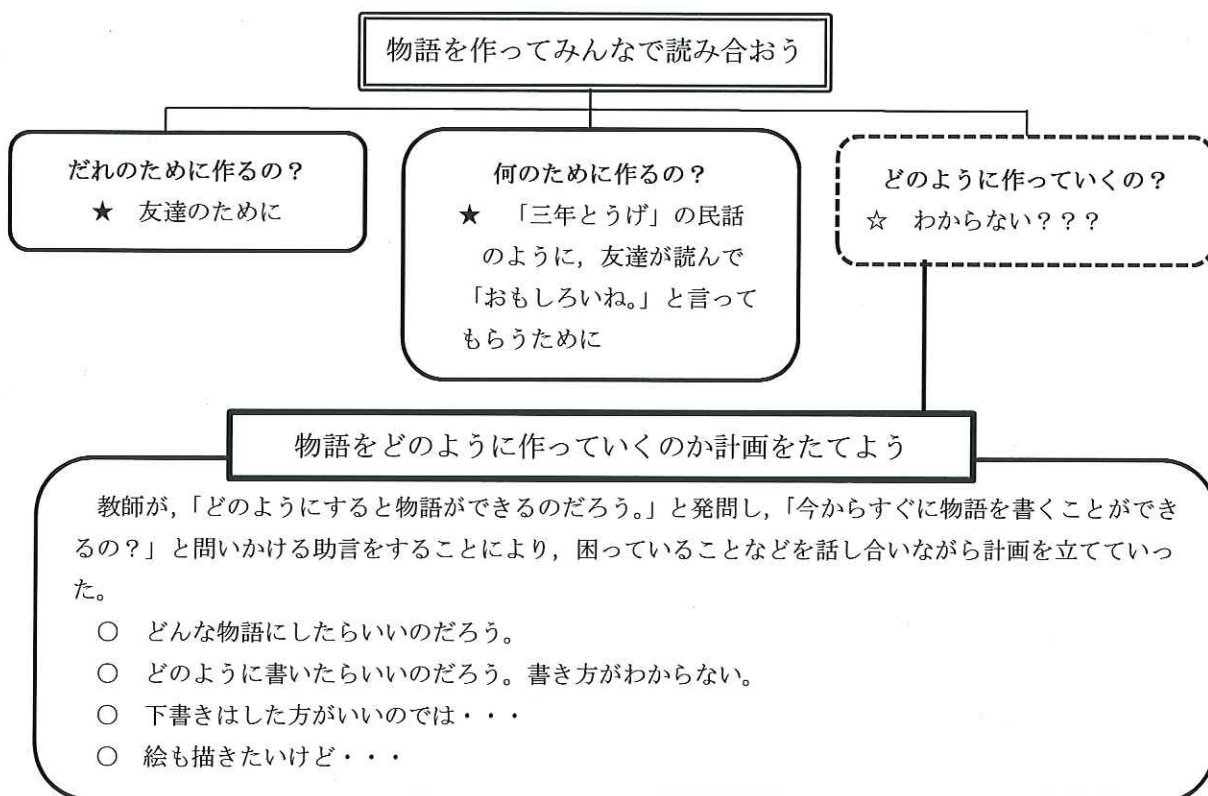
単元を貫く言語活動を設定するためには一次はとても大事である。今までのように、教材文を読んで初発の感想を書くという活動からは、「物語を書こう」という課題意識を持たせるのは困難である。そこで、単元に入る前に伏線をしておくことにした。



4 目的意識と学習計画

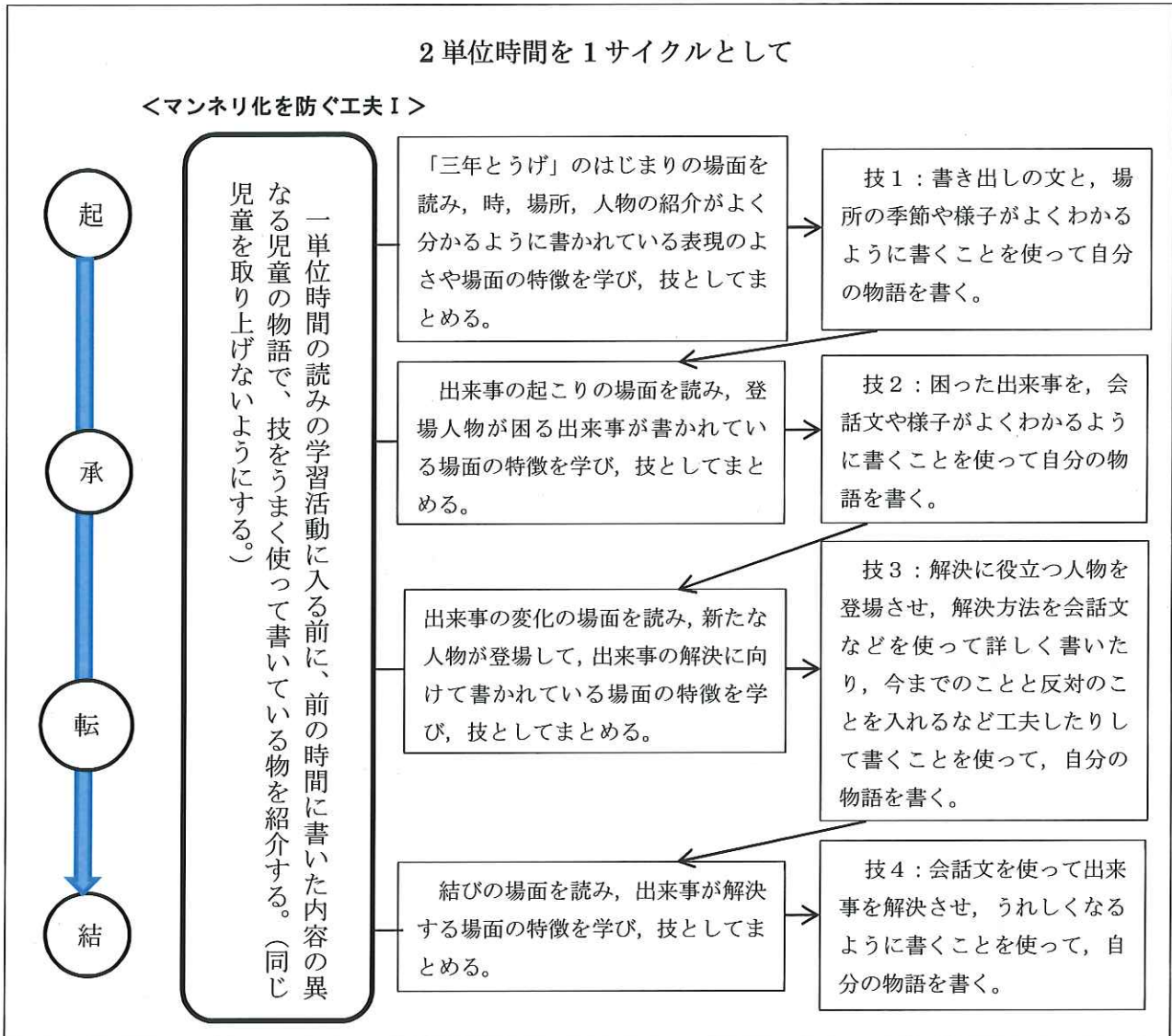
(1) 子どもが作る学習計画

本校では、現職教育において、問題解決学習を基盤に学び合いを大切にし、日頃からどの教科でも子どもと共に学習のめあてを作ったり、その解決に向けて自分の考えをもって友達と交流したりすることを積み重ねてきている。国語科の本単元でも同様に、子どもとともに単元の課題つまり単元を貫く言語活動と、課題達成に向けての計画を話し合い決めることを第一次とした。第一次で、3つの意識、相手・目的・課題を大切に言語活動を決定し、それに向けての計画を子どもたちが十分に話し合うことで、学習への意欲と見通しを持てるように配慮した。



5 場面ごとの読みを書くことに活用するために

教科書では、「三年とうげ」で、物語の組み立てをとらえ、登場人物の気持ちの変化や情景を想像して読む学習をした後、「物語を書こう」で、民話や昔話の組み立ての型を理解し、それを使って文章を書くというようになっていく。しかし、「三年とうげ」を読み、組み立てや表現のよさを学習した後、物語を書くことで学んだことが活用できるのか、また、書くことを苦手とする児童にとって、一つの物語を持続して書きあげることができるのか、という問題にぶつかった。その問題を解決するために、ワークシートを使って、場面ごとに読み取る活動と書く活動を繰り返していきながら、一つの物語を完成していく方法をとることにした。



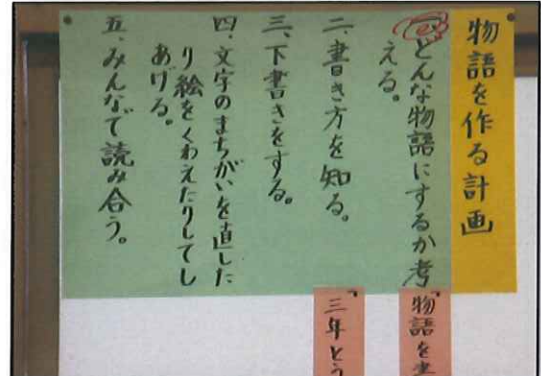
<マンネリ化を防ぐ工夫Ⅱ>

教室環境：学習の足跡を残し掲示しておく。



<マンネリ化を防ぐ工夫Ⅲ>

学習計画：見通しをもって解決していく。



6 1つの言語活動で貫いた単元構成

(1) 単元の全体 (13時間)

		時間	学習問題	主な学習活動
言語活動 組み立てを 考えて物語を 作りみんな で読み合おう	一 次	1	物語を書いてみんな で読み合おう。	・ 民話や友達の創作話の読み聞かせにより、物語を作 って読み合おうという学習課題を作り、学習計画を立て る。
		2	「 <u>物語を書こう</u> 」を ヒントにして、どん な物語にするか考 えよう。	・ 今までに読んで知っている「ももたろう」や「三枚の お札」などの昔話をもとに時・場所・人物・出来事（事 件）を考え、ワークシートに書く。
		3		・ マッピング法を使って出来事を中心に「いつ」「どこ で」などを書き出し、考えを広げたり関係づけたりして 構想を練る。
	二 次	4	「 <u>三年とうげ</u> 」を読 んで思ったことや表 現のよさを話し合 おう。 物語の <u>場面分け</u> を 使って <u>組み立て</u> を考 えよう。	・ 「 <u>三年とうげ</u> 」を読み、おもしろいと思ったところや 自分の物語に使いたいと思ったことをワークシートに 書き出す。 ・ 挿絵等も手掛かりにして <u>場面を分け</u> 、「 <u>物語を書こう</u> 」 の <u>組み立て例と比較して学習課題を見直す</u> 。
		5	「 <u>三年とうげ</u> 」で学 んだことを使って 物語を書いていこ う。	・ 三年とうげの紹介と言い伝えをどのように書いている か読み取り、「 <u>物語を書こう</u> 」で書いたマッピングを見 ながら自分の「 <u>はじまり：起</u> 」の部分を下書き用シ ートに書く。
		6 ・ 7		・ どのような出来事が起きるのか、そのときのおじい さんの気持ちを読み取り、自分の「 <u>出来事が起きる：承</u> 」 の部分を下書き用シートに書く。
		8 ・ 9		・ 水車屋トルトリの登場によって、どのように出来事が 変化するかを読み取り、自分の「 <u>出来事が変化する： 転</u> 」の部分に新たな人物を登場させて、下書き用シ ートに書く。
		10		・ どのように出来事が解決し、その後どうなったのかを 読み取り、自分の「 <u>むすび：結</u> 」の部分を下書き用シ ートに書くことができる。
	三 次	11 ・ 12	下書きをまとめ物 語を仕上げよう。	・ 下書き用シートに書いた文章を読み、加筆や削除をし ながら、敬体と常体との違いや句読点や改行に気をつけ ながら文章を推敲する。 ・ 推敲した文章を校正しながら挿絵を描き加え仕上 げる。
		四 次	13	友達の作品を読み 感想を書こう。

7 変化のある「転」を書く本時

(1) 比較を通して「転」を書く

話を創作する学習において、子どもたちにとって「転」の場面を書くことはとても難しい。抜け落ちたり変化をせずに書いたりしてしまうことが多い。変化があり読み手にとっておもしろい物語を作るために、「転」の場面をどのように書けばいいのかを学ぶ本時にしたいと考え実践した。

本時の学習のねらい

- ① 今までにない新しい人物を登場させ変化させている。
- ② おじいさんの病気が治る方法（解決方法）が会話文として書かれている。
- ③ おじいさんとトルトリの考えが反対である。（ここに話のおもしろさがある。）

<教材文「三年とうげ」と比較して>

「三年とうげ」の転の場面の特征として、今までに出ていない人物「水車屋のトルトリ」が登場し、主人公のおじいさんに解決方法を話すことにより、出来事が変化し解決に向けて動いていくのである。「三年とうげで転んだなら、三年しか生きられない。」という言い伝えを信じて、病気になってしまったおじいさんに、「一度転ぶと三年生きる、二度転ぶと六年。三度転ぶと九年……。転べば転ぶほど長生きできる。」という逆転の発想を、見舞いに来たトルトリが伝え、なるほどと思ったおじいさんは、とうげで何度も転ぶことで、病気が治り幸せに暮らすという結末を迎える。

本時は、教師が作った転の部分が欠落した資料文と「三年とうげ」とを比較して、どのように出来事が解決に向けて動き出したかを読み取り、物語を書くための「技」としてまとめた。ここでは、少し高度になるが、逆転の発想のおもしろさも創作に生かすことができたかと思い、2つの資料文を子どもたちに選択させて取り組ませた。

<教師が作成した資料文>

【ア】

その日から、おじいさんは、ごはんも食べずに、ふとんにもぐりこみ、とうとう病気になってしまいました。お医者様をよぶやら、薬を飲ませるやら、おばあさんはつきつきりで看病しました。けれども、おじいさんの病気はどんどん重くなるばかり。村の人たちもみんな心配しました。

※ この部分に解決方法が書かれていない。

やがて、おじいさんの病気がなおりました。すっかり元気になったおじいさんはおばあさんとなかよく、幸せに暮らししました。

【イ】

その日から、おじいさんは、ごはんも食べずに、ふとんにもぐりこみ、とうとう病気になってしまいました。お医者様をよぶやら、薬を飲ませるやら、おばあさんはつきつきりで看病しました。けれども、おじいさんの病気はどんどん重くなるばかり。村の人たちもみんな心配しました。

※ 解決方法が書かれているが、変化がなくおもしろくない。

「そんなある日のこと、とてもゆうめいなお医者様が村にやって来ました。さっそく、おじいさんを見てもらうことにしました。」

「わたしが作ったこの薬を飲むとすぐになおりますよ。」

と言いました。おばあさんは、おじいさんに薬を飲ませました。

すると、おじいさんの病気はすぐになおりました。すっかり元気になったおじいさんはおばあさんとなかよく、幸せに暮らししました。

(2) 板書によってつかませる「変化」

<学習指導過程>

学習活動	児童の意識の流れ	教師の支援活動
<p>1 前時を振り返る。</p> <p>2 学習のめあてを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来事（事件）が起きる部分を書いた。 ・ ○○の事件を書いた。 ・ ○○さんはおもしろく書いているな。 ・ 次は出来事（事件）が変化することを書いていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 出来事を変化することを書くのだけど、どのように変化させたらいいのだろう。 ・ 次にどう書けばいいかわからない。困ったなあ。 ・ 今日「技」を見つけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの学習経過が分かるように、資料等を教室側面に掲示しておく。 ・ 前時に書いた事件が起きた場面がおもしろく書かれている児童の作品を紹介し意欲づけを図る。 <p>発 事件が起きることを書いたら、次はどんなことを書くのでしょうか。</p> <p>助 <u>学習の計画表</u>を見るといいね。</p> <p>発 出来事（事件）が変化することを書くのですが、どのように書いたらいいかわかりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挙手により困っている児童を取り上げ本時のめあてとする。
<p>どのように出来事を変化させて書けばいいのだろう。</p>		
<p>3 三の場面を読む。</p> <p>(1) 音読をする。</p> <p>(2) 2つの資料文を読む。</p> <p>(3) ワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話が変わってきている。 <p>ア 病気になったおじいさんがすぐに治るなんておもしろくない。</p> <p>イ りっぱなお医者さんが出たのはいいけど、三年とうげの方がおもしろい。</p> <p>ア 水車屋のトルトリという新しい人物が出てきた。</p> <p>ア トルトリがおじいさんに言っていることがおもしろい。おじいさんとはちがう。</p> <p>イ 三年とうげはくふうしているなあ。ふつうっぽくない。</p> <p>イ おじいさんは転ぶと長生きできないと考えているけど、トルトリは何度も転ぶと長生きできると言っているところがおもしろい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今までの2つの場面を書いてきた学習と同様に、三年とうげで学んだことを使って書くことを確認した後、三の場面を読むようにさせる。 <p>発 どうでしたか。変化し解決に向けて動いていましたか。ところで、この2つの文章はどうでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水車屋のトルトリの登場によって、大きく変化し解決に向けて動くことに気付かせるために、変化のない資料文を提示する。 <p>助 2つの文章と比べながら読んで考えると、どうすればいいのか見つかりそうだね。</p> <p>発 三の場面を読んで、どのように変化をしているか見つけましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートを選択して、三の場面の変化を書くようにさせる。 <p>助 登場人物と会話文に気をつけて読むといいね。</p> <p>評 トルトリが言った言葉や内容をワークシートに書くことができたか。</p> <p>発 どのように変化し解決に向けて動き出しましたか。ワークシートに書いたことを発表しましょう。</p>
<p>4 ワークシートに書いたことをもとに話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>新しい登場人物、水車屋のトルトリが出てきた。</u> ・ <u>おじいさんは転んだら三年で死んでしまうという言われを信じたけど、トルトリは三年生きられる。</u> ・ <u>おじいさんとトルトリは全く逆の考えだ。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>後で「技」としてまとめやすいように発表したことを、新たな人物の登場・解決方法の2つに整理して板書する。</u> ・ <u>おじいさんが信じていた三年とうげの言われとトルトリの考えを比較して違いを話し合わせ、板書することにより、トルトリの逆転の発想に気付かせる。</u>

<p>5 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三枚のお札のおしょうさんもトルトリと似ている。どんなものにも変身する山姥を小さいものに変身させたから。 ・ トルトリさんは賢い人だね。転ぶと生きられると考えればいいなんて。 ・ これでおじいさんの病気も治るかもしれない。 ・ 新しい人物を登場させること。 ・ ふつうにお話を書くのではなく、反対のことを書くといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「三枚のおふだ」のおしょうさんの機転を例にすることにより、ここに話のおもしろさがあることをとらえさせたい。 ・ 時間があれば、二人の会話を聞いているおばあさんの気持ちを書かせることにより、トルトリの知恵や解決への道筋、おじいさんの性格にもふれさせたい。 <p>発 どのように変化をさせて書くとよいか見つけましたね。見つけたことを「技」としてまとめておきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに見つけたことを書いて発表させ、技として確認をする。 <p>評 新たに人物を登場させることと変化に関することの2つを書くことができたか。</p>
---------------------	---	---

<板書>

矢印を使って、逆転の発想に気づかせる。



授業の終末で発見したことを、技としてまとめる。

児童の発表を整理して、トルトリの前向きな考えを強調する。

8 成果と課題

- 第一次で単元を貫く言語活動について話し合い設定し学習計画を立てることで、児童自らが見通しと目的意識をもって、学習に参加することができた。
- ワークシートを使って、場面ごとに読み取る活動と書く活動を繰り返していきながら、一つの物語を完成していく方法をとることにより、書くのが苦手な児童も、意欲を持続させ書きあげることができた。また、各場面の特徴や組み立て・表現のよさを生かした文章も書くことができた。
- 書き手として読むことにより、「三年とうげ」の会話文のおもしろさや必要性・リズムカルな表現など、書きぶりのよさには気付くことができた。しかし、「読むこと」の指導事項である登場人物の性格や気持ちの変化を想像して読むということは、十分に達成できなかった。